

指導教員によるコメント

常木清夏さんは、14 世紀イギリス宮廷をめぐる政治文化史を博士論文のテーマとして研究を進めています。14 世紀政治史に関してイギリスでは膨大な研究蓄積があり、それらをきちんと消化した上で新しい成果をだすことが求められています。常木さんの研究は、特に宮廷のひとびとの絆のありかたに着目し、ジェンダーとセクシュアリティの視点から考察することにより、従来の政治史研究の成果を政治文化史という新しい切り口から改めて問い直そうという斬新で意欲的なものです。本海外調査研究が認められたことにより、オクスフォード大学やイギリス国立公文書館に所蔵されている史料調査だけでなく、国王エドワード二世の足跡を追う現地調査が可能になりました。その結果、14 世紀イギリス宮廷における王妃イザベラの動向という、これまでの研究ではあまり光が当てられてこなかった視点を発見したこと、年代記だけでなく証書などの様々な史料に目が開かれたことなど、常木さんの博士論文における中核的研究がこれにより可能となるものと思われます。従来の政治史研究動向を丹念に追うことと同時に、これらの視点を生かした研究成果を学術論文として発表することが期待されます。

新井 由紀夫（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）